



交流の輪ひろげよう

Ring

Ring

りんぐりんぐ

第61号
VOL.61

八戸国際交流協会
Hachinohe International Relations Association

2018年3月発行
Published March 2017

進め！ほくらのミニボート ～八戸市とオレゴン州のミニボートプログラム～



平成30年12月20日朝9時30分、大久喜漁港沖合い20キロ。

「それっ!」。大久喜小学校、金浜小学校、種差小学校、そしてオレゴン州の子どもたちが制作した色鮮やかなミニボート5隻はコロンビア川海事博物館ネイト・サンデル氏と大久喜の海の男たちの手によって太平洋の大海原へと放たれました。

「動力がついてるみてだな。」海の男たちの口からそんな言葉がでるほど、エンジンなしの1.5mほどのミニボートは水面を滑らかにすべるように進んでいきます。八戸の子どもたちの願いを載せ、海流に乗り、アメリカへ!

→詳しい内容は、2～3ページをご覧ください。

交流するともっと
わかる世界のこと。

Index

P2～3… 進め！ほくらのミニボート

P4 …… 中世ヨーロッパから学ぶテーブルマナー

P5 …… 世界で活躍する八戸ゆかりの人

P6～7… イスラム教徒のホストファミリーになる心得

P8～9… JICA 隊員現地レポート

P10… 国際交流員マシュウのコーナー

P11… HIRA からのお知らせ

P12… 外国人住民用「ほっとスルメール」

会員数

個人

163

団体

56

(平成30年3月現在)

進め！ぼくらのミニボート

～八戸市とオレゴン州のミニボートプログラム～



ミニボートプログラムへの八戸市の参加

ミニボートプログラムとはGPS搭載の小型無人ボートを海に流し、その漂流の観測を通じて子どもたちの海洋への関心を高めさせようという海洋教育プログラムです。米国の西海岸オレゴン州にあるコロンビア川海事博物館の教育担当部長ネイト・サンデル氏がこのミニボートプログラムを太平洋で実施しようと在ポートランド日本領事館へ協力者探しの相談をもちかけたところ、大久喜厳島神社の笠木がオレゴンへ漂着したことで繋がりのあった八戸市が領事館から紹介されました。

八戸市からはハマの3小学校 大久喜小学校、金浜小学校、種差小学校が協力することとなり、オレゴン州の4つの小学校、1つの中学校とともにこのプログラムに取り組むこととなりました。



八戸市でのボート制作

八戸市とオレゴン州のミニボートプログラムでは、双方から5隻ずつを進水させることとなりました。

平成29年12月、サンデル氏は八戸市を訪れ、大久喜、金浜、種差の3小学校の子どもたちと日本から進水させるミニボート5隻を制作しました。この時行われた作業は、帆と船体へ絵を描くこと、船のおもりであるキールの取り付け、ボート発見者へのメッセージを船に載せること。どの学校も、帆の片面に描かれたオレゴンの子どもの絵に負けまいと、もう一方の面に自分の顔やメッセージなどを時間いっぱい描いていました。

ボート完成後には、自分たちの作ったボートのお披露目と無事米国に辿り着くことを祈念して、大久喜小学校で3校合同ミニボート入魂식을執り行いました。子どもたちは自分たちの作ったボートの名前に込めた思いを1隻ずつ紹介し、最後には出港地となる南浜からミニボートが無事オレゴンへ着くよう願って「ふるさと」を合唱しました。



金浜小学校での制作風景



大久喜小学校での制作風景



入魂式での種差小学校児童



ボート進水「Bon Voyage (ボン・ボヤージュ)!よい旅を!」

入魂式翌日の12月20日、ミニボート5隻は潮流と出会う20キロほどの沖合いで進水されることとなりました。沖へボートを運んでくれるのは、海と繋がりが強いこの地区においてはほかならぬ南浜漁協の漁船、第58大勝丸です。

ボート進水の朝。小雪がちらつく肌を刺すような寒さの中、大久喜小学校の子どもたちがミニボート5隻を学校から漁船まで自分たちの手で運びました。

いざ出航の時には、祝福するように空は晴れ渡り、太陽が輝きました。

ミニボート5隻が子どもたちから漁船の大人たちに手渡され、第58大勝丸は、サンデル氏と子どもたちが呼び交わす「Bon voyage (ボン・ボヤージュ)!よい旅を!」の声の中、沖へと出港したのです。オレゴン州から戻った弁天島厳島神社の鮮やかな朱色の鳥居に見守られながら。



ボートを漁船へと手渡す子どもたち

八戸の子どもたちへの メッセージ

コロンビア川海事博物館の ミニボートプログラム担当者ネイト・サンデル氏から

私に素晴らしい体験をさせてくれた八戸の子どもたち、先生方、地元の皆様、市関係者、本当にありがとうございました。一緒に八戸を訪問した私の妻マギー、娘ハドソンそして私への皆様の温かい心遣いを決して忘れることはありません。私はこれまで全米50州のうち37州の子どもたちに教えたことがあります。でも今回のような歓迎と情熱そしてこんなに協力的な子どもたちと出会ったことはありません。私たち、そしてコロンビア川海事博物館を受入れてくださりありがとうございました。

今回のミニボートプログラムが海の魔法と不思議に子どもたちの目を開かせるきっかけとなってほしいと願っています。子どもたちが太平洋を目にした時、自分たちのボートがオレゴンへと航海を続け、そしてオレゴンからのボートが自分たちのところを目指して海を渡っていることを思い起こしてほしい。ボートを作ったオレゴンの子どもたちと友だちになってほしい。彼らは今、あなた方への手紙を書いています。

自分のボートが消息不明となつてがっかりしている子どもたちにいい知らせがあります。オーシャンフレンドと種差丸はまだ航海を続けているとわかりました。しかしGPSに問題があり、アメリカ政府のエンジニアがその問題解決のために奮闘しています。さらに、先週私たちはGOGO金浜丸のGPS信号を受信しました。GOGO金浜丸は冬の嵐に巻き込まれ海に沈んでしまったものと思っていましたが、まだ漂流していて、おそらく船体がひっくり返ってしまったと思われます。次の嵐がボートをもう一度ひっくり返し元に戻してくれることを願っています。このことは(もう一隻消息不明となっている)大久喜丸への希望を持たせますよね。

たった1隻だけ漂流中とわかっているドリーム大久喜を応援してあげてほしい。(5隻中4隻が消息不明となった)この結果は私が期待していたものではなかったけれど、これは科学のプロジェクトであって、科学ではいつも予定されたように事は運ばないものです。私たちはうまく行かなかったことから学ぶ。ボートたちが温かい海に辿り着けば再びGPSの信号を送ってくれると信じています。

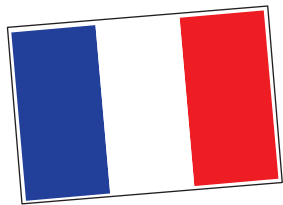
八戸の子どもたちはアメイジング!本当にすばらしい!

コロンビア川海事博物館
ネイト・サンデル より

サンデル氏とボート完成を喜ぶ子どもたち

☆はっち2階で航海の様子を紹介するボードを展示しています。
ぜひ見に来てください!





中世ヨーロッパから学ぶテーブルマナー ～西洋料理を楽しもう～ in 八戸グランドホテル



2018年1月31日（水）異文化理解イベント「中世ヨーロッパから学ぶテーブルマナー～西洋料理を楽しもう～」を開催しました。身だしなみを整え、ちょっぴり貴族になった気分歴史的背景を学びながら正しいテーブルマナーでの食事を楽しみました。



日本マナー・プロトコル協会の認定講師である高畑氏から、椅子の着席の仕方、乾杯の仕方、カトラリーやナプキンの使い方、ドレスコードと宝石の身につけ方など、テーブルマナーの基本やそれらが成り立つ歴史的背景について、たくさん教わりました。



縦に配置された長テーブルの上には銀の燭台が置かれ、雰囲気はまさに宮廷の晩餐会！



講師の八戸グランドホテル顧問 高畑紀子氏(右)と総料理長 岩脇隆之氏(左)



飲み物を飲む際はグラスの縁を汚さないように、その都度ナプキンで口元を押さえるといいんだって！それから、両手は常にテーブルの上に置いて、髪の毛は触っちゃいけないよ！

しまちゃん

そして今回は、普段なかなか目にすることがないことも体験できました！



【スープは1人ずつ給仕】



【岩脇氏によるビーフシチュー実演】



【フィンガーボウルで指先洗い】

Q & A (Q：参加者 A：高畑氏) ※一部を紹介します。

01 **Q** フォークの背にライスを乗せてもいいのですか？

A 以前は背に乗せて食べるのが主流でしたが、現在はどちらでも食べやすい方で大丈夫です。

02 **Q** お皿に残ったソースをパンでぬぐって食べてもいいのですか？

A カジュアルな食事の場合はパンでソースをぬぐって味を楽しんで OK ですが、格式が高い食事の際はやってはいけません。

「マナーは時代とともに変遷するものです。堅苦しく考える必要はありません。」と高畑氏。テーブルマナーは、一緒に食事をする人がお互いその時間を大切に、十分に楽しむためのもの。思いやりが何よりです。

ご参加くださった皆様
ありがとうございました！



かぶさん

世界で活躍する 八戸ゆかりの人

八戸工業高等専門学校
国際交流センター長(総合学科教育科 教授)

阿部 恵さん



第60号の『世界で活躍する八戸ゆかりの人』岩手大学教育推進機構グローバル教育センターの平井華代さんからのリレーで、今回は八戸工業高等専門学校 国際交流センター長 阿部 恵教授に海外での経験を紹介してもらいます。

■私の仕事

外国語教育・第二言語教育が専門で、英語を教えています。国立高専機構の高専カリキュラム検討ワーキンググループ英語部門の委員として、全国共通カリキュラムの設定に携わっています。

英語教育以外には、本校の国際交流センター長として、海外で活躍できる技術者育成に向け、海外の大学やポリテクニク等とネットワークの構築に力を入れ、国際交流事業の申請書作成、プログラムの企画・立案・推進を海外の教育機関と連携しながら行っています。更に、10数年前から15歳からのグローバル・エンジニア育成に向け、シンガポール、モンゴル、マレーシア、ニュージーランド、アメリカ、タイ、フランス、フィンランドなどへの学生派遣・受け入れを拡大しています。平成28年度から本校が東北・北海道地区高専のグローバル高専拠点校となったことから、事業統括者として、米国アリゾナ大学での教員研修や学生の異文化理解活動等を東北・北海道地区高専の教員や学生対象にも行っています。また、高専機構の国際交流センターのプロジェクト長として、国立高専51校の国際交流事業を推進する仕事をしています。

国際交流では海外の人々と一緒に仕事をする楽しさもありますが、仕事を完遂するために、交渉力、忍耐力、行動力、異文化理解力、様々な人と協調できる能力などが求められます。加えて、国際プロジェクト実施には、海外の担当者や同僚等とチームとなって進める必要があり、皆からの協力や支援は不可欠です。本校だけではなく、国立高専全体のグローバル・エンジニア育成やグローバル教育を備えた教職員育成に、皆と一緒に微力ながら貢献できることを大変嬉しく思っています。



オハイオ州立大学学位授与式(博士)

■留学について

海外で日本語や日本文化を教えることが夢で、外国語教育や第二言語の研究が数多く行われているアメリカで学びたいと思っていました。ロータリー財団の奨学生として、アメリカのオハイオ ドミニカン大学に編入し、外国語教育を専門に約1年間学びました。その後、オハイオ州立大学の修士課程と博士課程で外国語教育・第二言語教育を専門にしました。大学院時代はアメリカだけではなく、英語を外国語として教えている世界各国の教員や各国の外国語カリキュラムに携わっている専門化と一緒に学びました。クラスメートと勉強会を頻繁に実施し、留学時代一番大変だった博士論文の執筆も恩師や友達の励ましで乗り切ることができました。また、ニューヨークで開催された学会発表には友人4名とオハイオから10数時間かけて車で行き、帰りは吹雪で高速道路が閉鎖され、途方にくれたことも良い思い出です。留学中にアメリカの高校や日本語補習校で小中高生に日本語を教えたり、大学院でリサーチアシスタントをしたことも有意義な経験となりました。

留学のメリットはたくさんありますが、留学して一番よかったと思うことは、日本にいたら出会うことがなかっただろうすばらしい友だちとの出会いです。卒業して約20年近くになりますが、大学院時代の友達や恩師とは今でも連絡を取り合い、研修や学会等で会っています。今も様々な国で活躍している友人たちに刺激を受けています。留学で出会えた友達や体験はわたしの人生の宝です。



大学時代の友人との論文確認後の一息

【メッセージ】

グローバル社会がかつてないほどの速いスピードですすんでいます。国際交流活動に参加した学生たちが海外の学生たちと友好を築き、人間力や国際力が向上していることを実感した経験から、若い方々には、地域社会や国際社会に関心を持ち、キャリア選択を海外に広げることを期待します。



イスラム教徒のホストファミリーになる心得

イスラム教徒の若者が八戸の学校を訪問したり、留学生として八戸に滞在する機会が多くなっていますが、彼らへの対応は十分に知られていないように思われます。

イスラム教徒の方々のホームステイを引き受ける場合、「郷に入れば郷に従う」ということで自らの習慣を強要してしまうと、相手の文化を学び交流できる絶好の機会を失うことになります。そこで、八戸工業高等専門学校で3年間勉強してきた、インドネシアからの留学生NUR INDAH SETYORINI PUTRI(ヌル・インダー・セティヨリニ・プトリ:通称 プトリ)さんに、ホストファミリーがイスラム教徒の方々を迎える際に考慮してほしいことを、自身の体験を交えて教えてもらいました。



プトリさん

1 食材について



食べることができるもの[ハラールフード※]

- 魚介類、練り製品、牛乳・チーズ・バターなどの乳製品、穀類、豆類、鶏卵、野菜、果物
※おすすめメニューとして、寿司飯を使わない手巻き寿司、うどんと魚介、野菜天ぷら、野菜の煮物と焼き魚、魚介のお好み焼き(肉抜き)などを推奨しているウェブサイトもあります。



食べることができないもの[ハラームフード※]

- 豚肉、イスラム教のやり方で殺されていない牛と鶏(つまり、一般的に販売されている精肉は不可。豚由来の添加物ゼラチンもエキスが入っているから×。コンソメキューブも難しい。)
- アルコール類(みりん、しょうゆも含む。味噌も避けた方が無難。)

加工食品や加工調味料は、加工の段階でいろいろな食材やアルコールを含む調味料が使われているので使用できません。いずれにしても、食材や調味料等を購入する際は原材料の表示ラベルをよく見るのが重要です。



留学生の皆さん

プトリさん：学校主催でホームステイした時は、事前に食べることができる食材、調味料等のリストを提出し、ホストファミリーに分かるようにしました。それ以外は折角のおもてなしですので信用します。それでも食べる前には料理をした方に食材等を確認し、食べられない場合は丁寧にお断りします。

調理器具については、豚肉を調理したまな板や包丁など、事前によく洗っていただければ使っても大丈夫です。

※ハラールフード、ハラームフードとは？

ハラールはアラビア語で「許される」という意味で、ハラールフードはイスラム教徒が食べられる食材・料理のこと。逆に、ハラームは「やってはならないもの」という意味で、口にすることを禁止されているものをハラームフードといいます。

2 お祈りについて

Q：イスラム教徒はメッカに向かって1日5回お祈りをします。ホームステイ先の宗教的或いは神事的慣習との関係はどうでしょうか。

プトリさん：ホームステイ先で個室を提供していただければその部屋でお祈りを行います。お祈りの時にホストファミリーの方が一緒にいても問題ありませんし、その部屋に仏壇、神棚があっても大丈夫です。ただお祈りをする方向に仏壇、神棚があった場合はお祈りの場所を変えます。

また、お祈りをする前に体を清めますので、蛇口のある場所、例えばお風呂場を使わせてもらえれば良いです。

お盆やお正月に、お寺や神社に一緒にお参りに行く場合は、イスラム教徒はそれを単なるイベントとして見ますので、一緒に行くことはできます。

3 ヒジャブについて

Q：イスラム教徒の女性のスカーフ（ヒジャブ）はホームステイ先でも取らないのでしょうか。

プトリさん：ヒジャブは身内以外の男の人がそばにいれば絶対取りません。女性だけであれば異教徒の人がいても取ることができます。

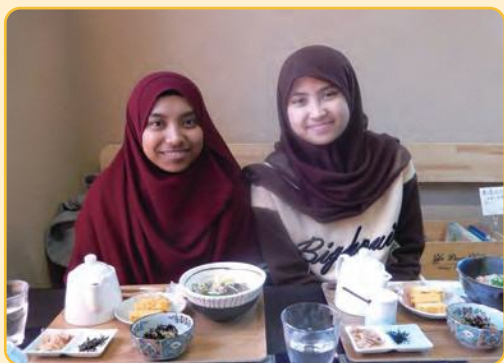
私は日本に来て4年になりますが、その間美容院で髪を切ってもらったことはありません。日本の美容院には男性も来ますので、彼らに見られることになるからです。美容師が女性だけで、完全個室または閉店直前の絶対他のお客様が来ない状況を作ってもらえれば行くかもしれません。

ホストファミリーの家でお風呂に入る場合は、一人で入るのであれば問題はありません。



なおペットの件ですが、イスラム教徒にとって犬は不浄の生き物であるため、犬を飼っていたホストファミリーには、プトリさんが滞在中は犬をゲージから出さないようお願いしたとのことでした。

イスラム教徒の嗜好と出汁（だし）



ディアナさんとプトリさん

イスラム教徒の方々の食材制限から考えると、八戸を代表する食材である魚介類や地場の野菜、そして日本食の味の基本である出汁で十分にもてなすことができるのではないのでしょうか。

そこで、新湊一丁目で出汁がコンセプトのカフェ「だし&カフェ禅」を経営する金山和歌子さんに、イスラム教徒の人でも食べることができる出汁ベースでお茶漬けを作っていただき、プトリさんと、後輩であるマレーシア人留学生NUR DIYANA BINTI IBRAHIM（ヌル・ディヤナ・ビンティ・イブラハム：通称 ディヤナ）さんに食べていただきました！

ディアナさん・プトリさん：出汁の味は十分に感じますし、美味しいです！私たちの国の料理の味は甘辛く、基本的材料としてレッドオニオンとニンニクを潰して味を出します。

日本に来て最初に味噌汁を飲んだ時には何も味を感じませんでした。逆に母国に帰って、お母さんの料理の味付けを塩辛く感じるようになりました。

ディアナさん：ホームステイでは、朝はご飯、味噌汁、魚など、昼はうどんなどの麺類を出してもらい、夜は留学生が料理をします。



だし茶漬け

途中、隣の席に座っていた地元のご婦人達と、イスラム教徒の人たちに合わせた料理のメニューについて雑談が始まりました。

ご婦人達も、「八戸の魚介類、地場の野菜であなたがたに合う料理は十分できるし、お国の甘辛い味付けもできるよ!」、「お国の料理はあなた達にとって普通の辛さでも、日本人にはとっても辛いのよ!」と会話が弾みました。

デザートは、チーズケーキは乳化剤が入っていることから食べることができなかったのも、日本の代表的甘味食材の“あんこ”を使ったお汁粉、どら焼きを食べました。もちろん、店主に事情を話しながら、食材を確認しました。そして、ここでもイスラムの若者とお菓子談議に花が咲きました。

*イスラム教徒のホームステイを引き受ける場合、食事、習慣等の違いを事前に話し合い、理解しておけば、一般家庭でも可能ですし、むしろ双方の違いが楽しい会話につながると思います。

我々もぜひ、八戸の魚介類や地場の野菜、出汁でイスラム教徒も食べられる料理を作ってみましょう。そのお料理って実はヘルシーですよ。

八戸市出身 JICAシニア 海外ボランティアの 現地レポート



メキシコにおいて、卓球指導で活躍しているJICAシニア海外ボランティア(2016年度第4次隊)の伊藤有信さんをご紹介します。

Q & A 01

Q：シニアボランティアに参加した経緯について教えてください。

A：経緯は2つです。

1つ目は38年間の教員人生の中で、国際理解教育を学校経営などの基盤に据え、「違いを受け入れ、認め合うこと」や「共に力を合わせ、支え合うこと」の大切さを生徒たちに語り続けてきたことと、それらのことを異文化の中で、自分自身が身をもって実践したいと思ったからです。

2つ目は具体的に人とのかかわり合うときの姿勢として掲げてきた「共汗共涙」や「誰かの役に立ちたい」、「自分を磨き続けたい」という自分の願いや目標を実現させるステージとして、JICA ボランティアが最適だと思ったことです。



大学で日本や八戸の文化を紹介する伊藤さん

Q & A 02

Q：どんな活動をしていますか？

A：現在、メキシコ州にあるホコティトラン市の州立大学を拠点校として、月曜日から金曜日までの1日6時間、3校の大学と近隣の小学生と高校生約80名に卓球を指導しています。日本で暮らしている時より、5キロも減量できました。

メキシコでは卓球はまだマイナーなスポーツであり、本格的な卓球用品もなかなか手に入れない環境です。また、ほとんどの学生たちは未経験者です。それらのことも踏まえ、現在の主な活動目標は卓球の楽しさや醍醐味を体感してもらい、卓球愛好者数を増やすこととしています。学生たちの意識や卓球環境など、課題は山積ですが、1つずつ学生たちと課題を共有しながら、解決に向けて一緒に取り組んでいます。

いろんなことはありますが、学生たちの卓球をしている時の真剣な表情やさわやかな笑顔が課題解決に取り組むパワーの源になっている毎日です。



JICA任務 卓球指導を小学生にする伊藤さん

また、土曜日には、メキシコ州を代表する選手たちをメキシコ州のコーチと共同して指導に当たっています。国内の代表入りを果たすなど、活躍している学生たちもいますよ。

Q & A 03

Q：活動をしていて、感じることを教えてください。

A：メキシコの学生たちに卓球を指導して感じることは、とても明るく素直だということです。また、ボールを自主的に拾ってくれたり、さりげない優しさもたくさん見られます。

ただ、気になることが2点だけあります。1つ目は国民性もあると思いますが、時間を守れないということです。例えば、集合時間に全員が揃うことがほとんどなく、何人かの学生が毎回遅刻して来るのが現状です。そのために、卓球活動の躰やルールとして時間の大切さを繰り返し指導しています。今は、少しずつ意識が変わってきていますが、このことは多くのメキシコの人たちの課題でもあり、社会全体としての意識改革が必要であるように思われます。

2つ目は継続することについてです。卓球だけでなくどんなスポーツでも長続きしない学生が多いです。メキシコの幼小中高の教育カリキュラムも含め、いろんな原因があるように思われます。私は50年以上卓球を楽しんでいると話すメキシコの学生たちは一様に驚くことが多いです。生涯スポーツという概念が薄いので、卓球の技術だけでなく、「健康と卓球」、「生涯スポーツと卓球」そして「日本の教育と伝統文化」をキーワードとして、大学のエキシビションや大学祭などいろんな場面でその大切さを伝えていきたいと思っています。



伊藤さん在住のホコティラン

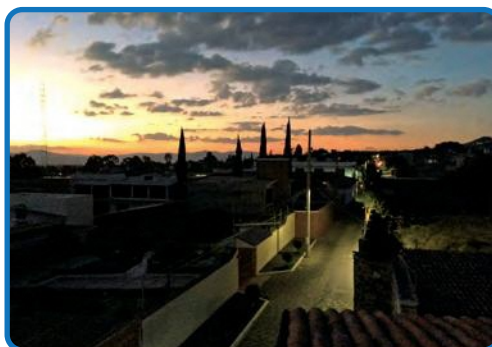
Q & A 04

Q：八戸市の皆さんにメッセージをお願いします。

A：私の住んでいるホコティラン市は、メキシコ州にあり、朝陽や夕陽そして夜空のキレイな2,600メートルの自然豊かな高地にあり、とても暮らしやすいところです。

メキシコは日本の約5倍の面積ですが、人口は同じくらいです。若い世代の人たちがとても多いので、活気があり、これからますます経済的発展の期待できる国の1つです。

物価も安く、メキシコ産の多くの食べ物は、日本と比べて半額以下で安く購入できる物が多いです。また、サボテンやテキーラが有名で、メキシコの8割以上の方の血液型がO型という珍しい国でもあります。



美しいホコティランの夕焼け



普通の昼食は学生食堂の定食。
35ペソ(約200円)

メキシコに興味のある方は、日本で有名なメキシコ産のアボカド、メロン、カボチャだけでなく、アステカ文明、マヤ文明などメキシコの歴史や文化に触れる旅行をしてみませんか。また、広大なメキシコは乾季と雨季、年中暑いところ、高地、太平洋、カリブ海岸など、日本では体験できないような自然豊かな観光地がたくさんあり、さらに、メキシコでは大規模なとうもろこし栽培地帯がたくさん見られ、日本の稲作のような美しさに驚かされます。

治安が少々心配ではありますが、是非、親日家の多いメキシコの人の優しさやおおらかさ、豊かな自然に触れてみませんか。メキシコに興味があったら、私も担当している「JICA、世界日記、メキシコ」で検索してみてください。



国際交流員 (CIR)

マシューのコーナー!



My Time in Hachinohe ～八戸で過ごした日々～

I moved to Hachinohe in August of 2015 and in August of 2018 it will be time for me to move once again. I have truly enjoyed the time I have spent here in Hachinohe, and I am very grateful to have had the chance to live here. The people of Hachinohe are very generous; there have been many people that have treated me very kindly over the years, using time and energy to teach me different things and help me in different ways.

私は2015年8月に八戸にやって来ましたが、2018年8月には八戸を離れなくてはなりません。その時が近づく中、私は八戸で過ごす日々を心から楽しんでいます。そして八戸に住む機会を持てたことにとても感謝しています。八戸の人々は心が広くて、いつも親切で、私にいろいろなことをいろいろなやり方で教え助けてくれるために、自分の時間とエネルギーを使ってくれました。

The winters in Hachinohe are cold and long but I like the snow. I have started skiing for the first time in my life since moving here, which has been a fun adventure. During the summer it is very hot but it is not as humid as where I have lived in the past, so it is nice. I have participated in the Sansha Taisai every year since I have moved here, and hopefully I will this year too. My co-workers taught me how to play the flute and helped me practice so I could participate in the hayashi for the festival. It has been one of the best experiences I have had since living here.

八戸の冬は寒くて長いけれども、私は雪が好きです。八戸に来て、人生ではじめてスキーをやってみたのはとても楽しい冒険でした。夏はとても暑いけれども、以前住んでいた場所ほど湿気がないので、住みやすいです。八戸に住んで以来、毎年八戸三社大祭に参加してきて、今年もぜひ参加したいと思っています。市役所のスタッフたちは、私に笛の吹き方を教えてくれ、一緒に練習したおかげで、お祭りの囃子にも参加することができました。そのことはとても光栄に思うし、八戸での最高の経験のひとつとなりました。

I have also begun practicing kyudo since living in Hachinohe. The instructors have been very encouraging, helpful, and welcoming. Practicing kyudo works your mind as well as your body, and the community at the Hachinohe Kyudo Association has taught me many things about Japanese society and culture, well beyond the realm of kyudo. It is my hope to continue to practice no matter where I move next after Hachinohe, and to continue to improve in a way that can communicate my appreciation for all of the things that I have learned.

八戸に来てからもうひとつはじめたことがあります。それは弓道です。八戸弓道協会の指導者たちはいつも私を励まし、親切に温かく接してくれます。弓道の稽古は体だけではなく精神をも鍛えてくれます。弓道は弓の世界のことだけではなく、日本の文化や社会についても多くのことを私に教えてくれました。八戸の次にどこへ行こうとも、ここで学んだことのすべてに感謝の心を持ち、一生懸命に稽古を続け更に上達することが私の望みです。

Working here has taught me a lot of different things about Japanese society and work place culture. I have not liked all the practices and customs of Japan but I do like many. It is a good to experience different ways of living and different ways of thinking, and it has been a very maturing process over these three years.

日本の職場で働いた経験ができ、日本の社会や職場の組織文化について多くのことを学びました。日本の習慣や文化のすべてが好きというわけではありませんが、大抵のことは受け入れるようになってきました。人生においていろいろな生き方や考え方を体験できるのはとても素晴らしいことだと思いますし、この3年間の経験が、私を大きく成長させてくれました。

It is strange to look back on three years of life and try to summarize it into a page or two. When one thinks of a city it is easy to list things that one likes about it: the amazing food, the beautiful coastline, the jubilation of local festivals. These are wonderful things but they are not truly what constitute the city. Hachinohe is instead all of the people I have met here, all of the conversations I have had, and all of the experiences I have shared. And I will greatly miss Hachinohe.

この3年を1、2ページにまとめて振り返るのは少し無理な感じがします。ひとつの都市について考えた時、それぞれ好きなもの、たとえば、すばらしい食べ物、美しい海岸、祭りの歓喜などを述べるのは簡単だけれど、それらはその都市の印象を本当に構成しているものではない。八戸には、ここで出会った人のすべてがあり、人々との語らいのすべてがあり、分かち合った経験のすべてがある。それこそが、八戸という都市の印象なのだから。



HIRAからのお知らせ

八戸国際交流協会 会員及び準会員募集!

八戸国際交流協会の会員及び準会員*を募集しています。当協会は、地域の国際交流や、多文化共生社会の推進を目的として活動しており、会員の皆様の会費によって運営されている団体です。

年会費 【個人】1口 2,000円 【団体】1口 10,000円

会員の特典

- 協会発行機関紙「りんぐりんぐ」をお届けします。
- 協会主催国際交流イベント情報をいち早くお届けします。
- 協会主催のイベントや外国語講座では会員割引等の特典があります。

※準会員は高校生を対象とした無料の会員制度です。詳しくは協会HPをご覧ください。

八戸国際交流協会ボランティア募集!

当協会は、国際交流活動に参加していただけるボランティアを募集しています。ボランティアとして登録できる方は、**18歳以上**で、次に掲げる条件を満たす方です。

- 条 件**
- 1) 八戸市内に住所を有する方
(市内の事業所及び大学に通勤通学している方を含む。)
 - 2) 国際交流に対する理解及び熱意がある方

- 活動内容**
- 通訳、翻訳
 - ホームステイ、ホームビジット受入
 - ツアーガイド
 - 国際交流イベントの企画、従事など

外国人のための日本語講座

会話を楽しみながら日本語を覚えましょう。

まずは、お気軽に見に来てください!

日 程：平成30年4月3日(火)～平成30年7月17日(火)の毎週火曜日

時 間：午後6時30分～午後8時30分

場 所：八戸市福祉公民館(類家)

対 象：八戸市近郊在住の外国人(レベル別にクラスに分かれます)

受講料：時期により異なるのでお問い合わせください。

【お問合せ】

NPO法人 みちのく国際日本語教育センター

馬 場 080-6051-3109

あけびやま npo-mijec@ezweb.ne.jp

明日山 080-6026-3109

michinokunihongo@gmail.com



ヒッポファミリークラブ

(英語はもちろん、いくつものことばを楽しみながら、話せるようになりたいと思いませんか?)

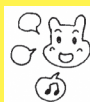
「八戸会場のご案内」お気軽にどうぞ!!

- 水曜日 15時半～17時 南部会館
- 金曜日 18時半～20時半 南部会館
- 土曜日 18時～20時 ユートリー
- 火曜日 18時半～20時 中居林コミュニティセンター
- その他午前中も随時開催

<お申し込み・お問い合わせ>

言語交流研究所ヒッポファミリークラブ

☎ 0120-557-761



カメイ歯科

八戸市六日町23(コンサートホールとなり)

TEL 0178-22-0707

診療時間 平日 10:00～14:00 15:00～19:00
土曜 10:00～14:00

- ・六日町パーキング券 を差し上げております。
- ・共通駐車券

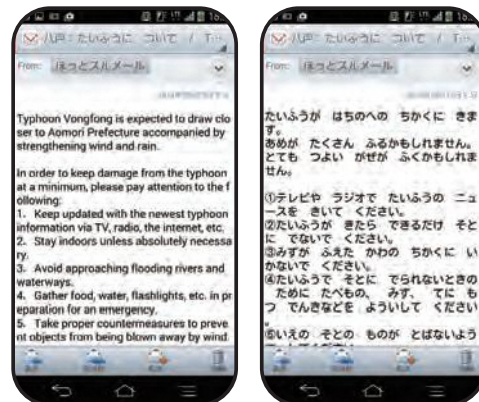
外国人住民用「ほっとスルメール」登録者募集中 Disaster Prevention Information Email in English and Easy Japanese

八戸市では、気象情報・緊急情報などを、外国人住民の皆さん向けに、英語・やさしい日本語(※)で配信しています。

※やさしい日本語とは、一般的な日本語よりも簡単で、外国人の皆さんにも分かりやすい日本語です。

Hotto Suru Email is a service that sends out disaster and safety information to cell-phone and PC email addresses.

Services are available in English and Easy Japanese.



料金

登録料及び情報利用料は無料です。
ただし、通信料は利用者の負担となります。

配信情報及び配信言語

- ① 津波情報 **日本語、英語、やさしい日本語で配信**
津波警報・津波注意報、津波に伴う避難情報
- ② 緊急情報 **英語またはやさしい日本語から選択**
地震・台風などの災害情報、避難勧告・指示や避難所開設情報
- ③ ライフライン情報 **英語またはやさしい日本語から選択**
電気・ガス・水道の事故などに関する情報

登録方法

登録を希望する方は、次の情報を添えてお申し込みください。

- ・名前 ・住所 ・電話番号 ・メールアドレス
- ・希望の言語 (英語・やさしい日本語)

★ホームページ上からも登録いただけます。



Cost

Registration and information services are free.
However, telecommunication fees remain.

Information Sent

- ① Tsunami Information **available in Japanese, Easy Japanese and English**
tsunami advisories / warnings, evacuation information
- ② Emergency Information **available in English or Easy Japanese**
earthquakes, typhoons, evacuation advisories / warnings, the opening and location of evacuation centers
- ③ Lifeline Information **available in English or Easy Japanese**
problems with electricity, gas and water

How to Register

Please apply with the following information.

- ・ name ・ address ・ phone number ・ email
- ・ desired language (English or Easy Japanese)

★You can also register online.



お申込・お問い合わせ Contact Information

八戸市 市民連携推進課 国際交流グループ
Citizen Collaboration Promotions Section International Relations Group
〒031-8686 Hachinohe Uchimaru 1-1-1

[TEL] 43-9257 [FAX] 47-1485 [E-mail] renkei@city.hachinohe.aomori.jp

外国人のお友達に
「ほっとスルメール」
のことを教えてあげて
くださいね!



こかぶくん



編集後記

今回イスラム教徒へのハラル対応について調査してみ、食材として八戸の得意とする魚介類、地場野菜を利用した地元家庭の調理で十分対応が可能ながわかりました。風習についても、事前に話し合って相互理解を深めておけば大丈夫です。意外とお互いのことに気づいてないようなので、身近にイスラム教徒のホームステイを受け入れる予定がある人がいたら、伝えてみてくださいね。

ハラル食材は健康に良い物でもあるので、青森県の短命県返上への取り組みに通じるところもあります。ハラル食材と「だし活」で減塩を進めましょう!

編集スタッフ

編集長：川崎 康一

編集員：亀井 圭子 田頭 順子 松田 朋恵

宗石 美佐 小笠原 勇太 春日 貴子
阿部 静香 マシュー・ボラ



発行・お申込・お問い合わせ：

八戸国際交流協会 (八戸市市民連携推進課内)

〒031-8686 八戸市内丸1-1-1

TEL 0178-43-9257 FAX 0178-47-1485

E-mail info@hachinohe-hira.jp

http://hachinohe-hira.jp



印刷：新光印刷株式会社

〒031-0813 八戸市新井田字鷹清水9-11

TEL 0178-34-5331 FAX 0178-34-6078